

2012 年度事業報告

1. 事業報告全般：

会員が所属する機関において組織や体制の見直しの機運が続いているなかで、さらに昨今の景気低迷が加わり、協会を取り巻く状況も厳しさが増している。このような状況下で、魅力ある協会とすることを大きな検討課題として、年間の諸事業を通して地道な事業を推進しているところである。

- ・一般社団法人への移行
昨年度来準備を進めてきた法人移行手続きを経て、2012年4月1日付で一般社団法人情報科学技術協会への移行を完了した。
- ・新たな研究会発足の準備開始
来年度発足をめざし、企業体の経営、意思決定に資する情報の調査・分析に関する研究を行う3i研究会(仮称)の準備を科学技術振興機構(JST)およびジー・サーチなど各機関と協力のもと進めた。
協会の主要事業である会誌刊行事業、出版事業、普及研修事業(講習会、シンポジウム、情報検索能力試験を含む)をはじめ、全体的に充実した事業を推進することができた。主な実績は次の通りである。
- ・会誌刊行については、前年に引き続き、会誌編集委員会の企画による特集テーマを核として、安定した定期発行を達成した。また、委員会レポートや情報検索能力試験実施など、協会活動の紹介を行った。
- ・研修事業については、研修委員会を中心に、西日本委員会およびパテントドキュメンテーション委員会との連携により企画・推進を行い、会員の注目するセミナー、見学会を実施した。
- ・パテントドキュメンテーション委員会では、昨年度好評を得た特許マップの利用と考え方に関する5回の連続セミナーに引き続き、「調査担当者のための明細書の読み方」など5回のセミナーを実施した。
- ・情報検索能力試験については、新設の京都会場を含む8ヶ所の公開試験会場と7ヶ所の個別試験会場で実施した。本試験に関する普及活動にも努めた。
- ・第9回情報プロフェッショナルシンポジウムは、多くの参加者を仰ぐことができた。今回はプロダクト・レビューの一般講演会場での開催、トーク&トークを2つのテーマでの同時進行などプログラムを改善し好評を得た。
- ・研究会としてのOUG(4分科会)、SIG(5部会)については、それぞれの分科会、部会において活発な活動が行われた。
- ・受託事業として、日本図書館情報学会の「2012年度図書館情報学検定試験」の運営に係る業務を実施した。

2. 2012年度役員および担当 (○は2012年度選出)

理事(東日本地区)

- | | |
|-------|---------------------------------|
| ○岩澤一男 | 出版委員会(副) |
| ○臼井裕一 | パテントドキュメンテーション委員会(正)、事業推進部会委員 |
| ○長田孝治 | 標準化委員会、事業推進部会委員 |
| ○小田島互 | 3i研究会、事業推進部会委員 |
| 小野寺夏生 | 会長、運営部会長、事業推進部会委員 |
| ○川村 剛 | 副会長、事業推進部会長、運営部会委員 |
| 小山憲司 | 試験実施委員会(副) |
| ○真銅解子 | 副会長、運営部会委員、事業推進部会委員、表彰者選考委員会委員長 |
| 田村紀光 | 専務理事事務局長、運営部会委員、事業推進部会委員 |
| 津山重雄 | 運営部会委員 |
| 原田智子 | 試験実施委員会(正)、運営部会委員、標準化委員会委員長 |
| 林 和弘 | 研修委員会 |
| 廣谷映子 | OUG, SIG |

- 三沢一成 出版委員会（正）
- 松下 茂 著作権委員会、運営部会委員
- 柳 一美 会誌編集委員会（正）

理事（西日本地区）

- 稲葉洋子 西日本委員会
- 田中邦英 西日本委員会
- 中江貴彦 西日本委員会
- 山田瑞穂 西日本委員会

監事

- 増田豊 殿崎正明

諮問委員（東日本地区）

- 青柳英治 ○小山内正明 佐藤京子 ○澤田大祐 ○清水美都子 高久雅生
- 西内 史 ○松谷貴己 望月聖子 百瀬研一 山崎久道 吉井隆明

諮問委員（西日本地区）

- 岡 紀子 落合圭 河塚幸子 北山阿梨 田窪直規 玉置さやか
- 永石弓子

3. 会員異動

種別	2011 年度末	入会	退会	増減	2012 年度末
維持会員	56	3	2	1	57
特別会員	105	1	6	-5	100
普通会員	1,136	79	109	-30	1,106
学生会員	22	6	11	-5	17
合計	1,319	89	128	-39	1,280

4. 会議開催状況

- (1) 通常総会 -----1 回

第 55 回通常総会および協会賞表彰式 2012 年 5 月 25 日（金）

議題：

- ① 2011 年度事業報告および決算報告（審議）
- ② 2012 年度事業計画案および予算案
- ③ 入会の基準および会費ならびに入会金の額（審議）
- ④ 理事および監事の報酬等の額またはその規程（審議）
- ⑤ 2012 年度～2013 年度役員選挙
- ⑥ 第 37 回情報科学技術協会賞表彰
 - ・情報業務功労賞 佐藤京子殿
 - ・教育・訓練功労賞 殿崎正明殿、藤田節子殿
 - ・優秀機関賞 saveMLAK 殿

- (2) 理事会 ----- 4 回（5 月 14 日、6 月 19 日、11 月 2 日、3 月 29 日）

- (3) 諮問委員会 ----- 1 回（2013 年 2 月 22 日（金））

（諮問事項：企業の分析に関する新しい研究会）

- (4) 委員会

運営部会	-----	6回	シンポジウム実行委員会	---	4回
表彰者選考委員会	--	1回	試験実施委員会	-----	5回
事業推進部会	----	4回	著作権委員会	-----	
会誌編集委員会	----	12回	研修委員会	-----	3回
西日本委員会	-----	6回	パテントドキュメンテーション委員会	---	5回
出版委員会	-----	4回	標準化委員会	-----	

5. 刊行事業

5.1 会誌刊行事業

2012年度も安定した発刊（当月1日）を達成することができた。会誌は特集を中心とした編集方

5.2 一般刊行事業

2012年度は、以下の3点について、企画・検討を行った。

- ①ライフサイエンス系研究者と医学図書館員を対象にした文献検索・管理のための「MeSH入門」について、刊行に向けて推し進めた。2013年度第一四半期を目途に発行する。
 - ②研修企画で実施したセミナー内容「EXCELから作るXMLデータベース構築」を活かした出版企画については、ニーズが掴みきれないことから、刊行に向けた企画検討は様子見とした。
 - ③図書館や書店でコミュニケーションツールとして話題の「ビブリオバトル」のガイドブックについて企画し、刊行に向けて推し進めた。2013年度第一四半期を目途に発行する。
- また、協会出版物の市販流通について検討を行った。

6. 普及研修事業

6.1 研修会・セミナー

2012年度に研修委員会が行ったセミナーおよび見学会は下表の通り。

情報検索能力試験対策セミナーでは、東京、大阪の両地区で情報検索応用能力試験2級および情報検索基礎能力試験の受験対策セミナーを実施した。

一般セミナーでは、実務に役立つ著作権セミナーを、東京・大阪にて開催した。

見学会については、印刷博物館及び医学中央雑誌刊行会を取り上げ、好評を得た。

恒例の事業となっている新年会とのセット企画では、「会議通訳者から学ぶ 情報収集・整理・活用術」と題するセミナーを行い、多くの参加を得た。

研修一覧

（研修事業全体把握のため、研修委員会企画分、西日本委員会企画分、パテントドキュメンテーション委員会企画分を一覧表としてまとめた）

No.	名称	期日	企画	会場	参加者数
1	見学会 印刷博物館	5月16日	研修	東京	9
2	調査担当者のための明細書の読み方(全2回)	6月～7月	パテント	東京	延べ 81
3	見学会 奈良国立博物館 仏教美術資料研究センター	8月4日	西日本	奈良	25
4	情報検索基礎能力試験対策セミナー 大阪	8月25日	西日本	大阪	23
5	情報検索基礎能力試験対策セミナー 東京	9月1日	研修	東京	28
6	サーチャータラ 21 大阪	9月1-2日	西日本	大阪	19
7	サーチャータラ 21 東京	9月15-16日	研修	東京	51

8	中国・台湾の特許調査と必要な知識(全3回)	10月～12月	パテント	東京	延べ 76
9	見学会 医学中央雑誌刊行会	12月6日	研修、会誌	東京	7
10	新春セミナー	1月18日	研修	東京	43
11	実務に役立つ著作権セミナー 大阪	3月8日	西日本	大阪	24
12	実務に役立つ著作権セミナー 東京	3月14日	研修	東京	47

6.2 シンポジウム

INFOPRO2012は、(独)科学技術振興機構との共催により、2012年10月18日～19日の2日間、日本科学未来館で開催した。特別講演、トーク&トークおよび一般発表など、充実した内容となった。また、今回も情報関連企業・機関の協力を得て、プロダクト・レビューを開催した。各社のプロダクト・レビューおよび展示コーナーでの商品展示を開催し、好評であった。

6.3 情報検索能力試験

2012年11月25日(日)に、新設の京都会場を含む8箇所の公開試験会場と7箇所の個別試験会場で試験を実施し、一級の二次試験は、2013年2月17日(日)に実施した。

試験後は、「合格を祝う会」を東京地区(3月8日)と大阪地区(3月9日)で開催した。「合格を祝う会」では、1級合格者の講演と新しい企画として1級試験のポイントについての説明を行い、好評であった。

(1) 2012年度「情報検索能力試験」実施結果 (カッコ内は2011年度実績)

	受験者数	合格者数	合格率
基礎	644名(701名)	534名(588名)	83%(84%)
2級	183名(200名)	85名(90名)	46%(45%)
1級	19名(14名)	3名(7名)	16%(50%)
合計	846名(915名)	622名(685名)	

試験地：

- ・ 1級一次・2級：東京1、東京2、名古屋、京都、大阪、福岡、つくば、上田
- ・ 1級二次：東京
- ・ 基礎(公開会場)：東京1、東京2、名古屋、京都、大阪、福岡、つくば、上田
- ・ 基礎(個別会場)：九州女子大、別府大、大阪工大、藤女子大、鳥取短期大学、宮城学院女子大学、昭和女子大

7. 調査研究事業

7.1 受託調査・事業

千代田区図書館の「内務省委託本画像DVD」検索システムを受注し納品した。

7.2 標準化活動

- (1) ISO/TC46 国内委員会へ委員を派遣した。
- (2) 本年度はJIS見直し等の必要がなかったため、特段の活動はなかった。

7.3 著作権活動

著作権委員会

- ・ 国の著作権法改正の動き等があったが、著作権セミナーへのアドバイスは行うものの、特段の活動はなかった。

8. その他の委員会、事業活動

8.1 広報活動

会誌での研究部会活動の紹介（OUG, SIG）、メールマガジンの発行など継続的に進めた。
さらには、ホームページからの入会および会誌、書籍注文につき、継続的に改善を図った。

8.2 西日本委員会

西日本委員会は12名の委員で構成しており、主に西日本地区に拠点を置く会員に向けた講習会、見学会、会員交流会などを企画立案し、情報活動の支援サービスを行った。

委員会の開催（年6回）

普及研修事業や見学会などの企画、実施計画、実施報告・反省を中心に、円滑な事業運営をすべく、活発な意見交換を行った。

普及研修事業

(1) 講習会 3件

①情報検索基礎能力試験受験対策セミナー（1日コース）

- ・開催日、場所：2012年8月25日（土）、大阪産業創造館
- ・講師：河塚幸子氏（近畿大学）

②サーチャー講座21：情報検索応用能力試験2級受験対策セミナー（2日間コース）

- ・開催日、場所：
大阪会場：2012年9月1日（土）、2日（日）、大阪産業創造館
東京会場：2012年9月15日（土）、16日（日）、連合会館
- ・講師：岡紀子氏（近畿大学 非常勤講師）、池田剛透氏（多摩大学）
田中邦英氏、三村智子氏（DIC株式会社）

③実務に役立つ著作権セミナー

- ・開催日、場所：2013年3月8日（土）、大阪産業創造館
- ・講師：南亮一氏（国立国会図書館関西館）

(2) 見学会 1件

- ・場所：奈良国立博物館仏教美術資料研究センター
- ・開催日：2012年8月4日（土）

(3) 会員交流活動

①じょいんと懇話会

西日本地区の情報検索能力試験合格者有志の会「インフォ・スペシャリスト交流会」との共催で、双方の会員および非会員で情報活動に関心の高い人との交流会を実施した。

- ・開催日、場所：2012年11月26日（月）、大阪市中央公会堂
- ・話題提供者：隅田英一郎氏（情報通信研究機構ユニバーサルコミュニケーション研究所）
- ・テーマ：「ここまできた自動翻訳技術～言語の壁を越えて広がる情報の世界」

②2012年度情報検索応用能力・基礎能力試験「合格を祝う会」

- ・開催日、場所：2013年3月9日（土）、大阪科学技術センタービル
- ・先輩サーチャーのお話：本田瑞穂氏（株式会社カネカ）

- (4)「情報活動研究会 (INFOMATES)」の活動支援
情報活動に興味を抱く人材が相互に研鑽する研究会の活動を支援。

8.3 パテントドキュメンテーション委員会

下記の事項について実施、企画、検討を行った。

- (1)特許調査に関する人材育成研修
- ・「調査担当者のための明細書の読み方」日本編、米国編 2 回のセミナー実施。
 - ・「中国・台湾の特許調査と必要な知識」3 回のシリーズセミナー実施。
- (2)特許調査に関する刊行物
- ・会誌 4 月号「特許情報教育」について、会誌編集委員会と共同で企画し刊行した。
 - ・前年度 10 月号より会誌に掲載していた連載「たまに使う各国特許庁 Web サイトの紹介」を 9 月号で完了した。
- (3)その他
- 会誌編集委員会、研修委員会等の各委員会と連携した。

8.4 表彰者選考委員会

第 37 回「情報科学技術協会賞」各賞の受賞候補選考を行い、次のように推薦した。

- ・情報業務功労賞 佐藤京子殿
- ・教育・訓練功労賞 殿崎正明殿、藤田節子殿
- ・優秀機関賞 saveMLAK 殿

9. 部会関連事業

9.1 日本オンライン情報検索ユーザー会 (OUG)

各分科会とも年間を通して主査を中心とした活動を行なった。各分科会の活動の詳細は、以下の分科会報告を参照されたい。

(1) 化学分科会 (主査：鈴木理加氏。9 回開催)

①例会開催報告

- ・6 月：DB 説明会 ジー・サーチ社の提供サービス (ジー・サーチ)
- ・7 月：DB 説明会 SciVerse と Reaxys (エルゼビア・ジャパン)
- ・9 月：勉強会 学術情報の動向
- ・12 月：DB 説明会 ProQuest Dialog と JDreamIII (ジー・サーチ)
- ・2013 年 1 月：ベンダー訪問 (社) 化学情報協会
- ・2 月：勉強会 情報検索応用能力試験問題を解く
- ・3 月：勉強会 情報検索応用能力試験問題を解く

②情報検索応用能力試験 試験問題 2 級の解答例をホームページより公開。

(2) ライフサイエンス分科会 (主査：西内 史氏。11 回開催。8 月休会)

①講演会 9 回

- ・5月 学術情報の動向
- ・6月 STN 医薬系データベースの強化:2011年6月～2012年5月分
- ・7月 科学技術情報発信・流通総合システムの状況
- ・9月 OUG ライフサイエンス分科会 300回記念講演
Publish or Perish 研究発表倫理を確立するために
- ・10月 SLA 2012 Annual Conference & INFO-EXPO のトピックス
- ・11月 OvidSP: 検索プラットフォームの真価―搭載コンテンツを含む開発の方向性
- ・12月 医中誌 Web Ver.5 バージョンアップのご案内
- ・2013年1月
Medtrack バージョンアップについて/Thomson Reuters ライフサイエンスプラットフォーム Cortellis の紹介 (薬事情報ウェブポータルを中心に)
- ・2月 AdisInsight のご紹介

②検索演習 2回

- ・4月
 - a. 糖尿病の食事指導について (国内)
 - b. アロマセラピー (セラピー) がターミナル期のがん患者 (特に疼痛・不安・倦怠感など) に有効であるエビデンスの文献
 - c. 疼痛スケール、フェイスマークの利点と欠点
 - d. 「一覧表がある文献」「画像がある文献」
- ・2013年3月
 - a. 2011年度情報検索応用能力試験問題を解く
 - ・調査すべきガイドライン情報サイトを3つ述べなさい。
 - ・ガイドライン情報サイト以外で調査すべき情報源を2つ挙げ、その情報源を効率的に検索するための方法を具体的に述べなさい。
 - ・収集した情報が大量になった場合の提供時の留意点を2つ述べなさい。
 (その2) ガイドライン掲載サイトに関する意見交換
 - b. 点滴バック内に誤った薬液を混入させてしまった場合の対処方法について書かれた文献
 - c. 腎障害、肝障害の方に対する薬剤投与

③討論会 1回

- ・OUG ライフサイエンス分科会 300回記念として、「情報リテラシー教育や情報サービス」について、4つのグループに分かれて意見交換した。

(3) インターネット／ビジネス分科会 (主査：渡邊 晃氏。8回開催)

①インターネット情報検索の基本事項：

- ・各種検索エンジンの特徴、機能比較(4月)
(検索オプション、検索対象、検索言語、最終更新日指定、絞り込み、表示順、ほか)

- ・プラグイン・ソフトウェアによるウェブブラウザへの付加機能について(5月)
- ・「グーグル・クロム(Google Chrome)」に対するプラグイン(アドオン)について(7月)
- ②インターネット利用の情報調査にかかわる近年の環境の確認：
 - ・図書、資料の調査に役立つウェブサイトの近況(9月)
 - ・情報検索・情報探索関連の動向、検索エンジンの各種サービス、機能などの動向(10月)
- ③ビジネス関連の事例研究：
 - ・JST(科学技術振興機構)によるJ-GLOBALのビジネス場面での応用例について(11月)
 - ・水素エネルギー社会での有望なビジネス(実現時期、規模、内容、主演者)(2月)
 - ・既存品・新規品の用途創出・探索について(3月)

(4) 特許分科会 (主査：須藤 健次郎氏。11回開催)

- ・4月 検索演習「特許第3701880号：ディスク保持装置」
- ・5月 講演会「データから見たデータベース」
- ・6月 講演会「ユーザから見たデータベース」
- ・7月 検索演習「F I 記号の見つけ方」
- ・9月 説明会「世界特許情報検索サービス(Japio)」
全体討論「特許分科会で取り組みたいテーマ」
- ・10月 検索演習「特許第3616449号：インキ転写回転体」
- ・11月 研究活動「各国の公報番号形態の調査およびデータベースへの入力方法」
- ・12月 検索演習「ノンアルコールビール」スクリーニング方法の検討
- ・1月 検索演習「特許第3870187号：積み重ねガラス用の間装コースタ」
- ・2月 検索演習「無針ステープラーに関する技術動向調査」
- ・3月 研究活動「CPCに関する情報交換」

9.2 専門部会(SIG)

特定の分野または専門技術に関心をもつ会員が自由に参加し研鑽を積む場として、以下の5グループがそれぞれ自主的に年間の活動テーマを企画し活動した。

(1) 技術ジャーナル部会(会員企業：13社。コアパーソン：持ち回り。6回開催)

部会は、担当幹事が用意した設問に沿って各社がそれぞれの現状を発表し、それに対して質疑応答を行うという形で進めた。

- ・第1回(6月1日) 使いやすい原稿フォームにするためには？
- ・第2回(7月27日) WEBへの掲載と活用
- ・第3回(9月28日) 掲載記事の利用許諾について(利用許諾／著作権／表記)
- ・第4回(12月7日) 技報の電子書籍化を考える
- ・第5回(1月25日) 技報の具体的な活用方法
- ・第6回(3月22日) 技報編集体制に関するアンケート結果
技術情報源としての技報の可能性

(2) **パテントドクメンテーション部会** (会員：8名。コアパーソナル：桐山勉氏。毎月開催)

- ① INFOPRO2012 シンポジウムにて、1件の発表を今年もした。
 - ・【A21】中国特許調査の課題と教育に関する研究；多観点からの課題研究
(今まで10年間連続して部会活動の成果を報告、発表継続期間の記録更新中)
- ②協会のホームページに組み込まれたパテントドクメンテーション部会のホームページにて、活動状況を(毎年複数回更新して)継続公開した。
- ③ 大阪工業大学のSNSにパテントドクメンテーション部会だけの非公開電子部会を継続開催し、毎月の部会活動に対する活性化補完の手段とした。Skype会議は4月以降せず。
- ④外国専門誌による勉強：
 - ・ World Patent Information 専門誌のトピックス記事を使い、記事紹介輪講会を行った。輪講会がメンバーの研鑽に役立っている。
 - ・ Fugmann 著「Subject Analysis and Indexing」の翻訳企画を長谷川氏を中心に考慮中。
- ⑤特別研修会を2012年9月22日～23日(1泊2日)に伊豆・大仁温泉で開催した。その際に、INFOPRO2012の発表の進め方について自由討議した。
- ⑥外部知的財産団体への協力；
INFOSTA—PD委員会に実行委員会1名参加(桐山担当)
- ⑦メンバー間のトピックス情報交換
米国 PIUG2012、EMW2012、EPOPIC2012、PIAC2012 in China、IPI-ConfEX2013、などの関連情報。CPC分類の移行実施情報と米国特許法(先願主義への移行、2013.3.16より)の改正に伴う手続き変更など。
その他、国内の色々な勉強会でメンバーが参加しているものの相互紹介など。
- ⑧プロバイダーデモ勉強会の実施
 - ・ 東芝の EiPlaza/DA のトライアルにより中国特許・実案の切り出しを研究を2013年2月より開始し、継続中。

(3) **分類／シソーラス／Indexing 部会** (コアパーソナル：山崎久道氏。11回開催)

- ①ブックレビューで扱った、『電子本をバカにするなかれ』『書物と映像の未来』『紙の本が亡びるとき?』『ゲーテンベルクからグーグルへ』『知はいかにして「再発明」されたか』『ネット検索革命』『ネット・バカ』『本を生み出す力』について、「1. 電子書籍の可能性、2. 紙の本の評価、3. 出版業の将来、4. 編集プロセスの位置づけ、5. 読者の側の変化、6. 図書館についての評価、7. 研究における情報流通、8. 検索エンジンの利用効果、9. グーグルについての見方、10. インターネットの評価、11. 歴史のとらえ方、12. 独自の視点」に関して、それぞれの書籍でどのような記述があったかをまとめ、KJ法を利用して全体を一覧し、問題点やポイントを掌握した。
- ②「知の断片化」に関する研究企画書を作成して、それに基づいて討論したうえで、関連するデータベースや電子ジャーナルの検索による先行研究の収集から着手した。
- ③UDCの最近の動き、日本語ポケットエディションの出版可能性の検討、などについて意

見交換した。

(4) Web サイト研究会 (会員：12名。コアパーソン：真銅解子氏。毎月開催)

原則として月一回の会合を開き、以下のような活動を行った。

① オープンソースによるデータベースの設計・作成の研究

引き続き個々のメンバー所有データのデータベース化について研究を続けた。

個別取り組みのため進捗状況は様ではないが、メンバーのひとりには本研究会の研究をもとに、所属機関内における特定主題文献のデータベースを短期間でLANに載せる実運用まで立ち上げた。

② 各種 Web API 利用の研究

HTML5について理解を深めるとともに活用の可能性について検討した。

③ その他情報交換、問題解決等

- ・電子書籍リーダーの比較
- ・URLの最後の数字部分を連続的に書き換えるScriptについて
- ・買い替えPCの扱い など

(5) ターミノロジー部会 (会員：10名。コアパーソン：太田泰弘氏。6回開催)

- ・第49回(5月11日) 電子化辞書から産業日本語まで(講師：横井俊夫)
- ・第50回(6月8日) INIS シソーラス日本語訳の経験(講師：板橋慶造)
- ・第51回(7月27日) JST 情報事業における用語辞書(講師：中村伸朗)
- ・第52回(9月14日) MeSHの歴史と現状、あわせてMeSH用語の使用頻度解析(講師：野添篤毅)
- ・第53回(11月30日) ISO/TC37 総会出席報告(講師：長田孝治、山本 昭)

10. 関連団体との交流

(1) 会員として加入

- ・(財)機械振興協会 賛助会員(継続)
- ・(独)科学技術振興機構 賛助会員(継続)
- ・東京商工会議所 賛助会員(継続)
- ・全国公益法人協会(新規)

(2) 他団体との共催

例年どおり情報プロフェッショナルシンポジウムを(独)科学技術振興機構との共催で実施した。(2012年10月18日～19日。日本科学未来館)

(3) 他団体より後援を受けたもの

INFOPRO2012に対し、専門図書館協議会、日本医学図書館協会、日本情報経済社会推進協会、日本図書館協会から後援を受けた。

(4) 他団体に後援、協賛したもの

- ・平成24年度専門図書館協議会全国研究集会(専門図書館協議会)

- ・特許検索競技大会 2012 ((独) 工業所有権情報・研修館)
- ・TP&D フォーラム 2012 (TP&D フォーラム実行委員会)
- ・情報活動研究会 など